

2022年12月19日



地域幸福度（Well-Being）指標を活用したデジタル・スマートシティの推進 ～官民共創型のアプローチ～

Digital Smart City HAMAMATSU



デジタル・スマートシティ推進課長 瀧本 陽一



デジタル・スマートシティ浜松の推進

デジタルファースト宣言

■ 宣言日 2019年10月31日

■ 目的

人口減少・少子高齢化をはじめとした社会課題が深刻化するなか、AI・ICT等先端技術やデータ活用などデジタルの力を最大限に活用し、持続可能な都市づくりを推進する。

■ 戦略分野

- (1) 「都市づくり」のデジタルファースト【都市の最適化】
- (2) 「市民サービス」のデジタルファースト【市民サービス向上】
- (3) 「自治体運営」のデジタルファースト【自治体の生産性向上】

■ 浜松市フェロー



陳内 裕樹氏



東 博暢氏



関 治之氏



日下 光氏



南雲 岳彦氏



白坂 成功氏



【官民連携組織】

R2.4.1設立

浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム

代表：浜松市長、事務局：浜松市（デジタル・スマートシティ推進課）

デジタル・ガバメント分野

浜松市所管部局

防災・安全分野

浜松市所管部局

教育・子育て分野

浜松市所管部局

観光・商業分野

浜松・浜名湖
ツーリズムビューロー

産業(ものづくり)分野

浜松市スタートアップ戦略
推進協議会

会員数:173
(R4.3.29現在)

運営委員会

※必要に応じ部会や
分科会を設置

エネルギー分野

浜松市スマートシティ推進協議会

モビリティ分野

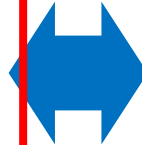
浜松市モビリティサービス
推進コンソーシアム

健康・医療・福祉分野

浜松ウエルネス推進協議会
浜松ウエルネス・ラボ

農林業分野

【林業】静岡県農林技術研究所森林・
林業研究センター
【農業】浜松スマート農業推進協議会 準備会



連携

【庁内組織】

R2.4.1設置

デジタル・スマートシティ推進本部

本部長：市長、副本部長：副市長

事務局：デジタル・スマートシティ推進課

デジタル・
スマートシティ
推進WG

デジタル・
ガバメント
推進PT

将来像

～デジタルで“繋がる未来”を共創～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoLの向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。

目指す方向性（基本理念）

「市民QoLの向上」と「都市の最適化」

必要な視点1

オープンイノベーション

イノベーションの創出に向け、組織や分野等を超えた共創のまちづくりを推進します。



必要な視点2

市民起点/サービスデザイン思考

デジタルは、「市民QoL」「都市の最適化」のための手段と捉え、“市民起点”のまちづくりを推進します。



必要な視点3

アジャイル型まちづくり

スモールスタートでまずチャレンジし、トライ&エラーを繰り返して、変化に強いまちづくりを推進します。



基本原則1

オープン/相互運用性

基本原則2

包摂性/多様性

基本原則3

透明性/プライバシー

基本原則4

持続可能性

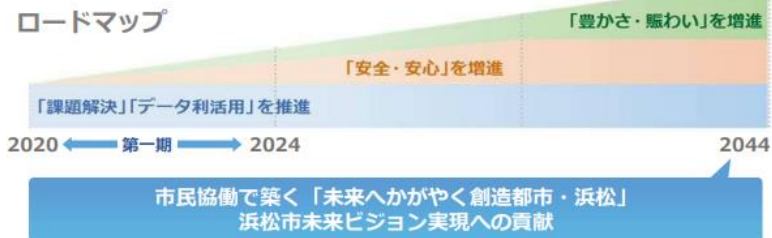
基本原則5

安全・安心/強靭性

IV 推進体制とエコシステム（好循環）/ロードマップ

8

「浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム」を中核に、官民共創でデジタル・スマートシティを推進し、「地域課題の解決」と「イノベーションや新たなビジネスを創出」するエコシステム（好循環）を形成します。



■ 推進体制

- 官民連携プラットフォームは、各分野の推進組織と連携し、分野間連携とデータ活用を推進。
- 官民連携プラットフォームは、民間主導のプロジェクトの創出を支援し、市民目線で地域のプラットフォーム（サービスの基盤をユーザーなどに提供する事業者）及びコーディネーターの機能を担う。



■ 目指すエコシステム（好循環）

- ベンチャー企業などから課題解決のアイデアやソリューションの提案を受け、実証実験を実施。
- 実行・検証・改善を繰り返し、社会実装へと繋げる。

【市民】

市民は、実証実験への参加やサービスを選択するという間接的な参加やシビックテック※など直接的な参加を通じて「市民QoL向上」に貢献。

※シビックテック：
シビック（Civic：市民）とテック（Tech：テクノロジー）を掛けあわせた造語。
市民自身が、テクノロジーを活用して、行政サービスの問題や社会課題を解決する取り組みをいう。

【企業】

企業は、地域課題の解決に貢献することで新たなビジネスやイノベーションの創出の機会とする。

「国土縮図型都市・浜松」の多様な実証フィールドの活用



官民共創による
まちづくり

デジタルを活用したまちづくり推進条例（2022年7月施行）

デジタルを活用したまちづくりの推進に関する基本的事項を定め、市民生活の質の向上や都市の最適化を図り、**市民が安全・安心で幸せに暮らし続けることができる持続可能な都市を築くことを目的**に制定。

【令和4年7月施行】

制定の 目的

- ① デジタル社会形成基本法の趣旨に基づき、デジタルを活用したまちづくりに関する本市施策の策定、実施について規定する。
- ② デジタルファースト宣言以降の本市取組の経緯を踏まえ、デジタルを活用したまちづくりに関する基本原則を改めて規定する。
- ③ 2020年12月総務省が策定した「自治体DX推進計画」を踏まえ、行政手続きのオンライン化、キャッシュレス決済等デジタル・ガバメントの推進計画の策定根拠を規定する。

主な 規定項目

- 目的
- 基本原則：構想 5つの基本原則を規定
 - ①オープン／相互運用性、②多様性／包摂性、③透明性／プライバシー、④持続可能性、⑤安全・安心／強靱性
- 市の責務：基本原則にのっとり、市民等と連携し、及び協力しながら、施策を総合的に策定及び実施する
- 市民等の役割：市と連携し、及び協力するよう努める
- 基本指針等の策定等：基本指針及び推進計画の策定

国（デジタル田園都市国家構想）

地域の人々のWell-Beingの向上の実現といった共通のゴールに向け価値観の共有を進め、共助の取組を引き出す。

（Well-Beingに係る指標の整備、活用の推進）

Well-Beingの視点で
暮らしやすさと幸福感を実感できるように
地域幸福度（Well-Being）指標を
活用していく



デジタル庁
デジタル社会の実現に向けた重点計画（概要）より

市（デジタル・スマートシティ構想）

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し「**市民QoLの向上**」と「**都市の最適化**」を目指しデジタルで“繋がる未来”を官民で共創

地域幸福度（Well-Being）指標から見た浜松市の特徴

浜松市の概要：環境が豊かで地域のつながりが、全国トップレベル。医療・健康、子育て、雇用・所得、多様性にも強みがある等、押し並べて強みが目立つオールラウンドプレイヤー的。交通事故件数の多さ、自然災害リスクが課題

概要

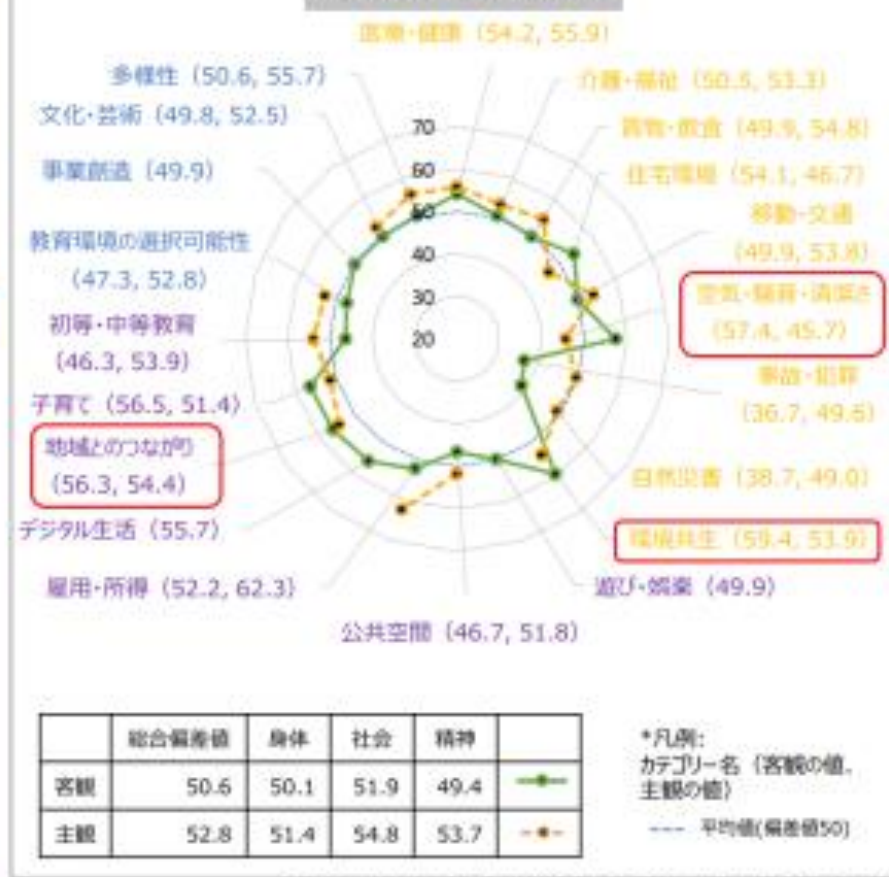
| | | | |
|-----------------|--|---------|------|
| 人口 | 約80万人 | 高齢化率 | 約26% |
| 可住地人口密度 | 1,640人/km ² | 昼夜間人口比率 | 99% |
| 都市の特徴・周辺地域との関わり | 浜名湖を有する自然豊かな政令市。中部地方では名古屋市に次ぎ、静岡県および三遠南信最大の人口。市内に大手自動車メーカーの本社が所在し、周辺に自動車部品工場も多い工業都市。高速道路や新幹線駅もある周辺地域のリーダー。 | | |
| 将来都市像 | 「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」 | | |

サマリー

- 「自治会・町内会加盟率」、「選挙投票率」、「拡張家族世帯割合」等で示される地域とのつながりは、日本トップクラス。分厚い社会関係資本が、浜松市の顕著な強み。
- 続いて、自然環境（非可住地面積割合）が多く、空気・騒音・清潔さも高水準。環境共生に関する活動も活発と、自然環境との共存意識も高い。
- 病院・診療所、夜間・緊急医療体制、スポーツ施設等、医療・健康に関する満足度が高く、健康寿命は、男女ともに極めて高水準であることも大きな特徴。
- 市議会における女性議員の割合の高さや子供や若者の多さが顕著であり、多様性の評価が高い。
- 子育てに関しては、「歳出総額における教育費の構成比」が際立って高く、「合計特殊出生率」も高い。子育て環境に関する満足度も平均を上回る。
- 雇用も若年層から高齢者まで高い水準となっており、「仕事が見つかりやすい」という主観的評価。

全般的に主観・客観的に高水準のオールラウンドプレイヤー的なパフォーマンスであるが、交通事故件数の多さおよび自然災害リスクをどう減らすかは課題。

カテゴリー別偏差値



主観データの出典：日経BP 総合研究所「シティブランドランキング2021」

出典：SCI作成資料

Well-Being指標の活用 → 感覚的な部分が可視化される

Well-Being指標を先行的に活用する4分野

選定の観点

- ◎ 市民の幸福度向上への寄与度
- ◎ デジタル・スマートシティの取組方針との親和性

ウェルネス分野



市民がいつまでも健康で幸せに暮らせる「予防・健幸都市」の実現を目指し、官民で取組を推進。



カーボンニュートラル／エネルギー分野



再生可能エネルギー導入容量日本一の特徴を活かし、産学官金によるプラットフォームを形成し、様々なスマートプロジェクトを推進。



交通／モビリティ分野



広大な市域や自動車産業が盛んな都市の特徴を活かした取組を推進。



スタートアップ分野



スタートアップと地域のものづくり企業との融合による新産業の創出を目指す。



2022年5月に南雲フェローに浜松へお越しいただき、各分野の担当職員が集まり、Well-Being指標についての理解を深めた。

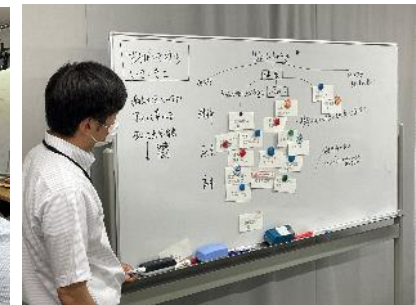


関係課職員による庁内WS（2022/6/17）

■ 進め方

個別計画の施策からスタート：

「健康はままつ21」の目標やKPIを分解・再構築するといったやり方でWell-beingのシナリオを考案。



【課題・反省点】

環境の因子に繋げる段階での解釈や、繋げた環境の因子の解釈などが、**上位の行動**や心の因子に繋がりにくく、シナリオが作れなかった。

・計画の中に出てくる言葉の定義にこだわってしまい、**シナリオに関する議論が深められなかった**

・多数に納得感のあるシナリオを作らなければならないと考えたため、**施策対象の絞り込みがしきれなかった**

【気づき】

- ・身体/心の健康に紐づくグループに分けられる
- ・心の健康と地域や職場の絆は関係がありそう
- ・年代によりWell-Beingが異なる
(年齢が高いほど健康が重要)
- ・健康寿命と市民の幸福感は必ずしも直結しない。
- ・やりたいことができる生きがいの違いを考える
- ・健康は手段であって目的でない
- ・現計画は不健康への対処の色合いが強い
- ・Well-Beingを考える上では別の指標が必要ではない
- ・生きる楽しみは健康以外の要素で補完できる
- ・ウエルネス分野は個人に帰属する要素が強い
- ・健康だけでWell-Beingのシナリオ完成が難しい
(他分野に派生)

Well-being

心の因子
主観的幸福感
指標

地域生活のWell-being
協調的幸福

行動の因子
活動実績指標
【行動因子】

センシユアス・シティ

環境の因子
生活環境指標
【環境因子】

暮らしやすさ

施策

Well-Beingをテーマとしたオンラインフォーラムの開催（2022/10/26）



デジタル・スマートシティ浜松 オンラインフォーラム 2022

持続可能で市民のWell-Being（幸福感）あふれるまちづくり
～国土縮図型都市・浜松の挑戦～

日時：2022/10/26(水) 13:15～16:50
会場：Zoomウェビナー（参加無料）
主催：浜松市、浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム

Digital Smart City
HAMAMATSU

| 時間 | 内容 |
|-------------|--|
| 13:15-13:20 | 【開会挨拶】 浜松市長 鈴木 康友 |
| 13:20-13:50 | 【 <u>インプットセッション</u> 】 浜松市のWell-Beingや幸福度因子から見た本市の特徴 モデレーター：浜松市フェロー 南雲氏 パネリスト：浜松市長 鈴木 康友、浜松市フェロー 東氏、浜松市フェロー 白坂氏、 浜松ウエルネス推進協議会顧問 池野氏 |
| 13:50-14:30 | 【 <u>セッション1</u> 】 デジタルを活用した市民参加型のまちづくり モデレーター：(株)HEART CATCH 西村氏 パネリスト：浜松市フェロー 関氏、浜松市内で活動するコミュニティ 小林氏、 はままつ子育てネットワークぴっぴ 原田氏、山ノ舎 中谷氏 |
| 14:30-15:10 | 【 <u>セッション2</u> 】 官民共創で目指すデータ連携基盤を活用したサービスの社会実装 モデレーター：浜松市フェロー 関氏 パネリスト：(株)フジヤマ 山浦氏、八千代エンジニアリング(株) 柴田氏 (株)オサシテクノス 古島氏、(一社)One Smile Foundation 辻氏 |
| 15:10-15:20 | 【休憩】 |
| 15:20-16:00 | 【 <u>セッション3</u> 】 デジタル・スマートシティ推進に係る人材育成 モデレーター：浜松市フェロー 日下氏 パネリスト：浜松市フェロー 南雲氏、浜松市フェロー 陳内氏、 静岡大学副学長 川田氏、浜松医科大学副学長 山本氏、AWS 大富部氏 |
| 16:00-16:50 | 【 <u>セッション4</u> 】 デジタル田園都市国家構想のリファレンスシティへ モデレーター：浜松市フェロー 東氏 パネリスト：浜松市長 鈴木 康友、浜松市フェロー 陳内氏、浜松市フェロー 関氏、 浜松市フェロー 日下氏、浜松市フェロー 南雲氏、浜松市フェロー 白坂氏、 浜松ウエルネス推進協議会顧問 池野氏 |



開催日 2022年10月27日 (木)

実施体制 主催：浜松市

共催：浜松市デジタル・スマートシティ官民連携PF

運営支援：(一社)コード・フォー・ジャパン

参加者 官民連携PF運営委員会構成団体、官民連携PF会員、
子育てNPO、在住外国人支援団体、大学生、市職員 計26名



ワークショップの紹介記事 (C4J) : <https://www.code4japan.org/news/event-20221027-decidim>



自分自身のWell-Beingで練習

↓
ペルソナを設定

↓
ペルソナのWell-Beingを考えた

Well-being

地域生活のWell-being

協調的幸福

センシユアス・シティ

暮らしやすさ

施策

①選んだ施策を行う事で、**誰の**幸福感を高めるのか？

その市民は、**心**がどんな状態になると幸せとを感じるか？

②そんな心の状態になるためには、どんな**行動**が必要か？

③そんな行動をとるようになるためには、どんな**環境**が必要か？

④そんな環境を作るために必要な**施策**とは何か？

WSでの気付き ～言及があったこと・もの～

ワークショップでの意見交換から

★地域住民の人柄に関すること

(やらまいか精神、子どもにやさしい人が多い、話しかけられやすい、祭り、太鼓、花火、仲間との交流)

・**景色や自然に関すること** (浜名湖、山が見える、釣り、青空、公園の多さ、程よい都会・田舎感、農作業)

・**活動に関すること** (散歩、昼寝、寝具、スポーツ、健康、たばこが吸えた)

・**移動や乗り物に関すること** (バイク、自転車、ドライブ、アクセスの良さ)

・**デジタルサービスに関すること** (いっちゃお、買い物、オンラインミーティング)

・**食べ物や飲み物に関すること** (うなぎ、うなぎパイ、ランチ、コーヒー、ビール)

・**動物に関すること** (ペット、犬、猫)

インタビューから

【ぴっぴ】浜松の人は近所の人やご年配の人が **(特に子連れだと) 声をかけてくれる人が多い**

→いろいろな人が見てくれている、気にかけてくれている → **幸福感につながっている**

【スズキ】発表を聞いていて、**移動に対する関心が強いと感じた。**

【HICE】外国人に聞くと、浜松は生活情報の多言語対応など施策を含め、住みやすいまちとの声をよく聞く。

誰もが住みやすい社会になっていることは、Well-beingに直結すると思う。

Well-being (幸福感)あふれる まちづくりに関するワークショップ

日時: 令和4年10月27日(木) 13:15~16:15

会場: ここ・い〜ら(浜松こども館分室) ギャラリー1

主催: 浜松市、浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム

協力: 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート、
一般社団法人コード・フォー・ジャパン

➤ 浜松市独自アンケートの分析

- ・ 民間のインターネットモニターを活用し市民アンケートを実施（サンプル数：約1,800）
- ・ 全国アンケートの補完、先行的に活用する4分野での独自項目
- ・ 11月：市民アンケート実施、12月：集計、1月：分析

➤ 先行4分野でのシナリオづくり

- ・ モビリティ、ウェルネス、カーボンニュートラル、スタートアップにおいて、まずは庁内でシナリオを作成（ペルソナを設定し作成）

➤ 官民の取組でのWell-Being指標やシナリオの活用

- ・ 12/22に開催する官民連携PFの運営委員会でWSの開催報告
- ・ 各分野（モビリティ、ウェルネス等）の推進母体での活用
例：先行活用分野のモビリティ分野において、官民連携組織の浜松市モビリティサービス推進コンソーシアムでモビリティ分野のシナリオを共有し、意見交換やシナリオを活用したWS等を開催